

# 緑のまきば

1977.10.15

小金井緑町教会  
小倉井市緑町四一六二二三  
電話：三三六一七九六一  
編集 教師 山本圭一

## 教 説 共に働く教会

山本圭一

植える者と水をそそぐ者とは一つである (コリントI 3章 8)

「三された者」

会津田島教会にまいりまして、言葉によって立てられた教会が、ここに宣教の業を力強く果されていくことに大きい喜びと敬意を覚えます。これこそ「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ16章15)とお命じになった主イエスの臨在を証しするものであります。

「さてイエスは山に登り、みころになつた者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた(マルコ3章13)」主イエスは山に登り弟子たちを召されました。私たちがどんなに低い地にあえていのか、現代の魔性の中にとりこになつているか。それはイエスのことばにうながされて山にたどりついた時、知らされてまいります。その山で、主はみころになつた者たちを呼び寄せられました。果して私たちが実際にみこ

るにかつたあざむき者であるのでしょうか。弟子たちもどうであつたのでしょうか。否、私たちは決してみころにあざむき者ではあり得ません。むしろみ心より遠く離れ背く者であります。決定的に重要なことは、主ご自身がみ心にならう者として私たちを受け容れ、呼び寄せて下さつたことでありませぬ。何の功績もない者を招いて下さるのであります。私たちが主のみもとに行くことは、主の招き、主の召しによります。

主の召しにおこたえすることは、私たちの業ではなく、私たちのうちに、主に従う決意を与えて下さる主ご自身のみ業であります。「そこで」とマルコは接続のことばを記しています。一呼吸おいて間合いを取ります。弟子たちは主によって、次の道に組み入れられていました。「立てられた」のです。倒れようとするものがあつ

ても主に支えられ、立ち続けることができるように導かれていたのです。その目的は第一に弟子たちを主のみもとに置くためであり、第二は宣教につかわし、第三には悪業を追放する権威を持たせるためです。私たちが礼拝ごとに繰り返し眺めかたにされることは、主のみこに近づくに立ち回り、みことばを熱心に聞き、勇気と希望を新たにしてこの世に再びつかかわれることであります。

しかし、私たちは何としばしばこの道からはずれてしまうことでしょうか。私たちの祈りも、自分の願いや望みが中心になつて、主をごま使ひのように仕立て、いる場合が少くありません。私たちの願望を果すために、主を使ひまくっていることがないでしょうか。「主よ、あなたのみ心を行おうと思ひますから私を守って下さい。あなたの栄光のために働きますから、私に勉強する力を与えて下さい。」主によって立てられた者の祈りは、このように変えられてゆくのではありません。

一つのチーム  
パウロは「わたしは植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である」(コリントI・3章6)とうつたえて

います。教会は「キリストにある幼な子」であるとも言っています。生涯をかけて成長し続けるのがキリスト者であります。成長させるために、主は絶えずみ言葉をもって訓練し、長所を伸ばし、欠点をすみ取つて下さいます。朝な夕な私たちを配慮して下さいます。従つて、植える者や水を注ぐ者は教会に属する者として一つたつてあります。一つとは one team のことでもあります。それぞれの地に在る教会は主のもとに一つのチームなのです。

従つて共通の目標を達成するために共に働き労苦を分つことが私たちの喜びであります。さらに一つのこと達成した時には自分の手柄とすることはできません。相手が失敗した時には、相手の非をかばうようになりませぬ。何よりも慎まねばならぬことは独りよがりでありませぬ。誰かの独善がチームをばらばらにしてしまうことがしばしば起ります。

私たちはこちらに参りまして互いに都市と農村にある教会の姿を見ることができました。互いに交流することによって広い視野に立つことができました。この尊い経験は今後日本宣教にかゝる大きい幻になると信じております。